

# こころのお便り

杉並区立高井戸第四小学校

校長 細川 猛彦

指導教諭 早川 宏（たかし教室担任）

## 1. 「おぼえていられない…」



- ◇ 漢字の学習。読み方も書き方もしっかり学習してできるようになった。はずなのに…。後日、その漢字を書こうと思っても、なかなか思い出せない。
- ◇ 「今日は週末だから、体育着を持ち帰らなければ」と思っていたら、友達から遊びに誘われて、いっしょに下校した。体育着はそのまま忘れて、教室に置いたまま帰ってしまった。
- ◇ 先生が、明日の持ち物について説明している。話はきちんと聞いていたが、たくさんのことを指示されて、なんだかわからなくなってきた。

◎ これらの例は、いずれも **ワーキングメモリー** の働きが関係しています。ところで、この言葉は、ほとんどの方にとって聞き慣れないものです。しかし、私たちの生活や学習にはとても大切なものです。ワーキングメモリーとは…、

記憶や情報を頭の中に一時的にとどめておき…、

物事を考える、読んだり書いたりする、何か行動をするときなど、

必要に応じて頭の中にとどめてある記憶や情報を呼び起こして使うことができる機能



言わば、「頭の中のメモ帳」のような働きですね。

- ◎ ワーキングメモリーが使われる具体的な例をあげると、このようなものがあります。
  - ・おつかいの場面……指示されたものを記憶にとどめて、スーパーでそれを思い出しながら買い物をする。
  - ・学校場面……「本を片付けて、椅子を持ってきてください」という指示を聞いて、その指示を記憶にとどめておきながら、実際に行動する。
  - ・調理のとき……手順をおぼえておきながら、「次の手順は？」と、順序よく調理を進める。
  - ・話すとき…伝えたいことを頭に入れながら、わかりやすい言葉や順序立てを考えて話す。
- ◎ ワーキングメモリーに弱さがあると、学習の場面でいろいろと困り感をもつことがあります。
  - ・黒板に書かれていることをノートに写すとき。板書されたものを見ておぼえるが、ノートに目を移し書こうとすると、板書されたものをおぼえていないので書けない。
  - ・文章を読解すること、文章問題を解くこと。一つずつの文の意味はわかるが、前の文章が頭に残りにくいので、文と文のつながりや話の流れがわからなくなってしまう。
  - ・算数の計算問題（筆算）。繰り上がっている数をおぼえておきながら、次の手順は何か？と考えなければいけない。計算をするとき、途中でわからなくなってしまう。
  - ・日々の学習の成果が積み上がっていきにくい。

（裏面へ）

◎ ワーキングメモリーに弱さがある場合の支援は…

- ・目からも情報が入るようにして、ワーキングメモリーの弱さを補う  
（例）やらなければいけないことを「やることリスト」として、メモに書いておく。筆箱や机の上、壁、ランドセルなど、よく見えるところに貼っておく。手順や優先順位もわかるようにしておく。  
（例）おぼえておくための、専用のメモ帳や小型のノートを用意する。（高学年以上）  
（例）ペン（水性）で手に書いておく。
- ・大人の対応として……一度にたくさんの指示を出しすぎない。小分けにする。

※ このケースでは「怠けている」「ちゃんと聞いていない」と思われやすいです。すると、意欲や自信をなくし、ますますワーキングメモリーの弱さが目立ってきます。

※ あくまでも失敗を減らすための支援や工夫ですが、支援することによりワーキングメモリーを働かせやすくなります。そのことで、ワーキングメモリーの機能が活性化させる面もありますし、自分に合った「覚えておく方法」を見つけ出すことにもつながります。



## 2. 口答えするようになった

◎ 「前はとても素直でいい子だったのに、最近は親に口ごたえをするようになった」「去年は、帰宅後すぐに宿題をやっていたのに、今年はやらなくなっている」などの話を保護者の方々から伺うことがあります。

◎ 「ダメになってしまったのか?」「退行したのか?」— いえ、そうではありません。小学校1~2年生の頃は、大人との関係を軸に、大人に頼りながら、学習、生活、対人関係を成り立たせています。ところが、3~4年生の頃になると少しずつ自立に向かい始めます。すると、次のような様子を示すことがあります。

- ・大人に従うよりも、あえて自分の意志を押し通そうとしたり、大人に反抗したりする。
- ・友達と比較し、自分の「できる」「できない」を自覚し気にするようになる。自分のできていないことや苦手なことを指摘されたくない。

◎ 特に 3~5年生頃の子供は、まだまだ大人に甘えたい気持ちと、自立したい気持ちとが入り交じっています。そのため、大人たちを戸惑わせることもしばしば見られるのです。子供たちが、大人になるに向けて成長していく過程で通らなければならない問題であり、ハードルでもあります。私たち大人も誰もが経験していることでしょう。大人自身が子供時代を思い出して、「自分ならどのように扱われたいか」と考えるとよいでしょう。

◎ 「できることが増える」「わかることが増える」ことだけが成長ではありません。大人を悩ませることになっても、これも成長です。でも、大人としては戸惑いますよね。気がかりなことがありましたら、各学級担任、養護教諭、スクールカウンセラーに相談されることもよいでしょう。